

市立釧路総合病院新改革プラン

『令和元年度の点検評価』

市立釧路総合病院
医療管理課 企画財務担当

市立釧路総合病院新改革プランについて

総務省は、経営の効率化、再編・ネットワーク化、経営形態の見直し等の視点に立った公立病院改革を継続するとともに、今後の公立病院改革においては地域医療構想の取組みと整合的に行われる必要があるとして、平成27年3月31日付けで「新公立病院改革ガイドライン」を示し、新たな公立病院改革プランの策定が要請された。

当院においては、これまでの経営改革の継続はもちろんのこと、地域医療構想を踏まえた役割を考慮したうえで、提供する医療の質の向上、安定的な経営基盤の確立を目的に、平成29年2月に市立釧路総合病院新改革プランを策定したところである。



理念

信頼と満足の創造

理念を実現するために定めた経営方針と目指すべき病院像

目指すべき病院像

住民・患者に支持される病院

開業医に選ばれる病院

地域医療レベルをリードする病院

医療従事者に選ばれる病院

経営方針

- ・十分な説明のもとに患者の意思を尊重し、患者中心の医療を行います
- ・心温かな質の高い医療サービスを実践するため、日々研鑽します

- ・地域医療を支援するため、病診連携を密にします

- ・地域完結医療を目指し、高度医療・救急医療を充実します

- ・良識と協調性のある医療人として、意欲と誇りの持てる職場環境づくりに努めます

令和元年度 市立釧路総合病院新改革プラン 数値目標の状況等

目標の設定について	医療機能の向上と経営の効率化に向けて数値目標を定めている。 経常収支比率については、新公立病院改革ガイドラインで対象期間中に経常黒字化する数値目標を定めるべきと示されていることから、目標を100%以上としている。その他の項目については、平成27年度の実績値から今後の推移等も勘案して目標を定めている。
-----------	---

1 医療機能等指標に係る数値目標

項目	算出方法	指標説明	目標	実績	実績-目標	達成状況
(1) 救急患者数	全時間帯の救急患者数	診療時間外、及び緊急的に医療を必要とする患者の受入患者数。	13,000人以上	13,773人	773人	○
(2) 手術件数	全診療科の手術件数	手術室を使用して行った手術の件数。	3,800件以上	4,065件	265件	○
(3) 臨床研修医受入人数	研修医マッチング数	研修希望者と研修病院の希望を踏まえて、一定の規則に従って、組み合わせを決定するシステムにより受け入れた研修医の人数。	6人	6人	0人	○
(4) 紹介率	$\frac{\text{紹介患者数} + \text{救急患者数}}{\text{初診患者数}}$	初診患者数に占める他の医療機関からの紹介によって受診した患者数の割合を示す指標。	65%以上	53.2%	△11.8%	×
(5) 逆紹介率	$\frac{\text{逆紹介患者数}}{\text{初診患者数}}$	初診患者数に占める他の医療機関に紹介した患者数の割合を示す指標。	40%以上	57.1%	17.1%	○
(6) 在宅復帰率		退院患者のうち、自宅や他院の地域包括ケア病棟等に退院した患者数の割合を示す指標。	90%以上	92.5%	2.5%	○
(7) リハビリ単位数	外来、入院合計のリハビリ単位数	外来患者・入院患者が受けたリハビリの単位数。	113,500単位以上	93,818単位	△19,682単位	×
(8) 分娩数シェア率(釧路管内)		釧路管内の分娩数のうち、当院の分娩数の割合を示す指標。	46%以上	29.7%	△16.3%	×
(9) クリニカルパス適用率		入院患者数に占めるクリニカルパス（入院から退院までの治療内容を標準化したスケジュール表）を適用した患者数の割合を示す指標。	46%以上	45.2%	△0.8%	×

【達成状況：○達成 ×未達成】

2 経営指標に係る数値目標

項目	算出方法	指標説明	目標	実績	実績-目標	達成状況
(1) 経常収支比率	$\frac{\text{経常収益}}{\text{経常費用}} \times 100$	診療収入や一般会計からの繰入金等の収益で、医業費用や支払利息等の費用をどの程度賄えているかを示す指標。	100%以上	100.3%	0.3%	○
(2) 医業収支比率	$\frac{\text{医業収益}}{\text{医業費用}} \times 100$	医業活動から生じる医業費用に対する医業収益の割合を示す指標。	92%以上	95.5%	3.5%	○
(3) 職員給与費対医業収益比率	$\frac{\text{給与費}}{\text{医業収益}} \times 100$	医業収益のうち、職員給与費が占める割合を示す指標。	52%以下	49.1%	△2.9%	○
(4) 診療材料費対医業収益比率	$\frac{\text{診療材料費}}{\text{医業収益}} \times 100$	医業収益のうち、診療材料費が占める割合を示す指標。	10.6%以下	9.3%	△1.3%	○
(5) 後発医薬品使用割合	$\frac{\text{後発医薬品}}{\text{後発医薬品がある先発医薬品} + \text{後発医薬品}}$	使用医薬品のうち、後発医薬品が占める割合を示す指標。	80%以上	90.7%	10.7%	○
(6) 1日当り入院患者数	$\frac{\text{年間延入院患者数}}{\text{入院診療日数}}$	1日当たりの入院患者数を示す指標。	538人以上	494.3人	△43.7人	×
(7) 1日当り外来患者数	$\frac{\text{年間延外来患者数}}{\text{外来診療日数}}$	1日当たりの外来患者数を示す指標。	1,361人以上	1,273.5人	△87.5人	×
(8) 入院単価	$\frac{\text{入院収益}}{\text{年間延入院患者数}}$	入院患者の診療に係る収益について、患者1人1日当たりの平均単価を示す指標。	55,447円以上	56,494円	1,039円	○
(9) 外来単価	$\frac{\text{外来収益}}{\text{年間延外来患者数}}$	外来患者の診療に係る収益について、患者1人1日当たりの平均単価を示す指標。	12,398円以上	15,238円	2,840円	○
(10) 病床利用率（一般病床）	$\frac{\text{1日当り入院患者数}}{\text{稼働病床数}}$	1日平均で病床がどの程度利用されているかを示す指標。	85.8%以上	82.3%	△3.5%	×
(11) 平均在院日数（一般病床）	$\frac{\text{在院日数}}{\text{入院数}}$	入院患者が平均して何日在院したかを示す指標。	12.0日以下	12.0日	0日	○

【達成状況：○達成 ×未達成】

3 令和元年度取組結果について

【実施状況について】

医療機能等指標に係る数値については、9項目中5項目が目標を達成した。

救急患者数は、応需率向上対策を行っており目標を達成した。

手術件数についても、手術室業務の効率化等により目標を達成した。

臨床研修医受入人数の目標は達成したが、医師、薬剤師等の人材確保が課題となっている。

紹介率は目標を下回ったが、逆紹介率は目標を上回る結果となっており、地域医療を支援するためにも、更なる病診連携等の強化が必要になっている。

分娩数シェア率は目標を下回っており、患者ニーズへの対応等が課題となっている。

経営指標に係る数値については、11項目中8項目が目標を達成した。

経常収支比率は、入院、外来患者数が減少したものの、入院、外来診療単価の増による医業収益の増により、100%以上の目標を達成した。

職員給与費、診療材料費対医業収益比率、後発医薬品使用割合は目標を達成したが、更なるコスト縮減や後発医薬品の使用拡大等により、これまで以上の効率的な運営が必要である。

【委員からの意見等】

地震、停電等の災害に備えて水や燃料の備蓄の課題等について引き続き検討し、災害対応の充実に努めてほしい。

市立釧路総合病院をはじめ、釧路市医師会、地域病院の協力や連携により、圏域の救急医療体制が充実していることは住民に安心感を与えているので、今後も体制の維持に努めてほしい。

また、新型コロナウイルス感染症の流行に対しては、感染予防物品の十分な確保と感染患者受入体制の整備に引き続き努めてほしい。

病院機能維持に必要である新患外来の紹介制への移行については、市民の理解が進んでいない現状が見られるので、広報くしろや町内会を通じて積極的に周知するなど、地域住民の理解に一層努めてほしい。

臨床研修医受入人数が増加したことは、医師の確保に繋がることなので、引き続き取り組みを進めてほしい。

看護師、薬剤師等の人員確保については、厳しい状況が続いているように見受けられる。

今後も大学、看護学校、地元の高校生に対して、修学資金制度の説明や募集方法を工夫するなど、引き続き人員の確保に努めてほしい。

新型コロナウイルス感染症の流行により減収したものの、経常収支比率100%を達成したことは評価できる。

収束の見通しが見えないなか、厳しい状況が続くと思われるが、引き続き効率的な経営を目指してほしい。

【今後の取り組み方針等】

過去の地震、ブラックアウトの経験を踏まえて策定した業務継続計画（BCP）を必要に応じて見直しながら、災害時においても安定的な病院機能を確保できるよう努めたい。

救命救急センターとしての役割を果たすとともに、他の医療機関等と連携し、救急医療体制の維持に努めていきたい。

この地域で唯一の第二種感染症指定医療機関として保健所と連携しながら新型コロナウイルス感染症患者の受入体制を整え、診療を行ってきたい。

また併せて、釧路・根室の三次医療圏における唯一の地方センター病院として、地域完結医療の中核を担う役割や新患外来の紹介制の取り組みなどについて、広報くしろや町内会等を通じて積極的に周知していきたい。

医師、看護師、薬剤師等の人員確保については、これまでの大学、看護学校への訪問のほか、地元及び道東地区の高校等への修学資金制度の説明など、人員確保に向けた取り組みを進めていきたい。

新型コロナウイルス感染症の影響で厳しい経営状況となっているが、効率的な運営を行い経営の安定化を図りたい。